

【対象：第3学年】 【実施日：R7.4.17】

〈国語科について〉

1 定着が十分だった内容

- 内容のまとまりを意識して、文章の構成や展開を考えることはよくできている。また、読み手の立場に立って表記を考え、文章を整える問題は、全国平均正答率を約10%上回っていた。
- その要因は、説明文や小説でも構成に着目し、内容を捉える学習を繰り返しているからだと考えられる。

2 定着が不十分だった内容

- 根拠を明確にして読むことや、たくさんの情報の中から必要な情報を選択することに苦手を感じている生徒が多い。
- 事象や行為を表す語句の意味が分からない生徒も多いと考えられる。

3 今後の具体的な改善策

- 文章の中から必要な情報を選び、要点を要約する機会を増やす。
- 分からない言葉を調べたり、その言葉の類義語・対義語を知ったりすることで、語彙力を高めさせる。
- 「なぜそう感じたのか」の根拠を明確にできるよう、筋道を立てて考えられる授業実践を行う。

〈数学科について〉

1 定着が十分だった内容

- 文字の式・確率に関して、基本的な問題はよく理解できている。
- 文字の式では、事柄が成り立つとは限らない場合の反例を挙げて説明できていた。
- 確率では、基本的な確率を求める問題は理解できている。

2 定着が不十分だった内容

- 上に挙げた文字の式に関して、目的に応じて式を変形したり意味を読みとったりして、数学的な表現を用いて証明する問題の理解が十分でない。
- 確率に関して、不確実な事象について起こりやすさの傾向を捉え説明する問題の理解が十分でない。

3 今後の具体的な改善策

- 基本的な知識を問う問題は、全国平均と比較しても大きな差はないが、説明することに理解が十分でないことから、
- ペアワークを通して、論理的に説明する力をつけさせる。
- 事柄の意味を読みとり、数学的な表現を用いて記述する問題に取りむませる

〈理科について〉

1 定着が十分だった内容

- エネルギーの領域では、情報の読み取りや電気抵抗についての基本的な問題はよく理解できている。
- 地球の領域では、身近な事象についての問題は理解できている。
- 探求の過程における振り返りを、記述することができていた。

2 定着が不十分だった内容

- 地球の領域では、地層に関する問題の理解が十分ではなかった。
- 生命の領域では、呼吸に関する問題の理解が十分ではなかった。
- 予想や目的を達成するために必要な実験を、選択することが苦手な生徒が多いと考えられる。

3 今後の具体的な改善策

- ICT機器を活用することで、個別最適な学習を進める。
- ペアワークを通して、基礎基本の定着を図る。
- 実験を行う前には、グループごとに、目的の確認と予想を話し合う活動を取り入れる。

〈生徒質問紙について〉

1 肯定的な意見が全国平均を上回っていた項目

- ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」
- ・「読書は好きですか。」
- ・「国語の勉強は好きですか。」など

2 肯定的な意見が全国平均を下回っていた項目

- ・「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。」
- ・「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。」
- ・「理科の授業では、観察や実験をよく行っていますか。」など

☆具体的な方策

- 効果的な学習方法など、個に応じた具体的なアドバイスをする機会を設ける。
- ペア学習、グループ学習を取り入れ、話合う場面を場面を増やしたり、意見を発表する機会を増やす。
- 授業での発問を工夫し、さまざまな観点から広い思考ができるような授業展開を継続する。
- 読書活動を励行する。(読書週間の継続、図書室の利用改善)
- タブレットやICT機器を効果的に活用し、表現方法を工夫する。(可視化に努め、わかりやすさを追求する)
- タブレットの持ち帰り等をはじめ、生徒が主体的に家庭学習に取り組む方策を試行する。